

| | | |
|----------|---|--|
| 会 議 名 | 第四期第1回 八王子市動物愛護推進協議会 | |
| 日 時 | 令和3年(2021年)7月30日(金)午後2時00分~4時00分 | |
| 場 所 | 八王子駅南口総合事務所 会議室 | |
| 出席者氏名 | 委 員 | 飯田公司、尾川幸次、菊地満帆(座長)、佐々木与志美、渋谷寛、刈馬美香子、西木千絵、丸山総一(副座長)(50音順) |
| | 説 明 者 | 石川元樹生活衛生課課長補佐 |
| | 事 務 局 | 渡邊洋子保健所長、久間毅生活衛生課長、石川元樹生活衛生課課長補佐、成田梢生活衛生課主任、山川大介生活衛生課主任 |
| 欠席者氏名 | 塚本富男 | |
| 議 題 | 1. 飼い主のいない猫対策について 2. (仮称)八王子市動物愛護センターの整備について | |
| 公開・非公開の別 | 「一部非公開」 | |
| 傍聴人の数 | なし | |
| 配付資料名 | 1. 第二期第三回動物愛護推進協議会議事録まとめ (飼い主のいない猫対策について) 2. 令和3年度八王子市飼い主のいない猫対策推進計画 3. 八王子市飼い主のいない猫対策推進協力員設置要綱(案) 4. 飼い主のいない猫対策市民アンケート調査(案) 5. 飼い主のいない猫対策啓発チラシ 6. 第三期第一回動物愛護推進協議会議事録まとめ (動物愛護相談センターについて) 7. (仮称)八王子市動物愛護センター整備についての方向性の整理 当日資料 1. 八王子市地域猫活動ガイドライン令和3年度改訂版 当日資料 2. 八王子MOCOどうぶつ病院チラシ 当日資料 3. 動物愛護センター整備に係る各種データ | |

| | |
|-----------------------|--|
| <p>会議の内容 (要旨)</p> | <p>【事務局：石川】 ○司会進行</p> <p>【事務局：渡邊】 ○保健所長より挨拶</p> <p>【事務局：渡邊】 ○辞令書交付</p> <p>【各委員】 ○自己紹介</p> <p>【事務局：成田】 ○配布資料の確認 ○同意書の説明</p> <p>【事務局：石川】 ○座長、副座長の選任（座長：菊地満帆氏、副座長：丸山総一氏）</p> <p>【菊地座長】 ○ここから菊地座長により進行 ○公開・非公開について 一部非公開にすることに決定、推進員に関する内容については個人情報 の取り扱いのため非公開とする。その他の議題については公開。</p> <p>【事務局：成田】 ○傍聴者についての報告（傍聴者なし） ○会議録の作成方法について 会議録の作成は要点筆記とし、①会議の名称②開催日時③開催場所④ 出席、欠席者の氏名⑤議題⑥会議の公開・非公開の別⑦傍聴者の数⑧配 布資料名⑨署名いただいた委員のお名前を公表する。</p> |
|-----------------------|--|

《議題1 飼い主のいない猫対策について》

【事務局：成田】

○資料1に基づき説明

平成29年度、平成30年度に本協議会で飼い主のいない猫対策について協議するも、市内各地では飼い主のいない猫をめぐる様々な問題が生じている。これを受け、飼い主のいない猫対策を本年度の重点事業と位置づけた旨を説明。

○資料2～4に基づき、今年度新たに取り組む事業、計画等について説明

○資料5について、飼い主のいない猫不妊去勢手術助成金制度の啓発チラシ、地域猫活動の普及啓発チラシを市内町会自治会を通じて配布予定である旨説明。

○当日資料2について、飼い主のいない猫不妊去勢手術専門病院が市内に開業した旨を説明。

○当日資料3について、八王子市の猫の現状の推移を説明。

【対馬委員】

統計の数字についてお聞きしたいのですが、所有者不明の猫の引取り数が令和2年度は39件とありますが、これは子猫だけということですか。

【事務局：久間】

そのとおりです。

【対馬委員】

今まで減りつつあったのが逆に増えているというのは、何か原因や心当たりはあるのでしょうか。

【事務局：久間】

今年の子猫の収容数はすでに70匹を超えています。他市にも今年度の収容状況を確認したところ、他市は例年通りの数だそうです。

ただ、これまでは子猫がいるという通報があってから1日置いて収容していました。というのは、親猫が近くにいる可能性があり、その確認のためです。しかし、1日置いてしまうためにカラスに取られてしまったり、衰弱してしまうという事例であったので昨年度から少しでも早く収容するようにしました。

【対馬委員】

そうすると、これまで 10 年間助成金をやってきましたが、その効果はわからないということでしょうか。

【事務局：久間】

そうではないと考えています。

これまで、累計 5,142 匹の猫に助成金を交付してきました。統計データの死体回収数をご覧いただくと、平成 27 年度は 885 体なのに対し、令和 2 年度は 359 体と半減しています。このことから、野良猫の総数は減ってきていると考えています。

【対馬委員】

路上死体の数の推移は、野良猫の数の減少を如実に表していますね。これを見ると、助成金の効果は表れているのだと思います。

20 年前、自宅近くには野良猫がよく歩いていて、自宅の動物病院には子猫が箱に入って捨てられていましたが、ここ数年はそのようなことはぱったりありません。ボランティアの方々の活動には頭が下がります。

今までは「野良猫嫌ね」という感じだったのが、「何とかしなきゃ」「可哀想だから捕まえてどこで手術してもらえばいいの」という風に、一般の方の、飼い主のいない猫に対する考え方がプラスに変わっている印象があります。ボランティアの方はどのように感じていらっしゃるのでしょうか。

【佐々木委員】

はちねこは保健所で収容した子猫を他の 2 団体と順番に引き受けています。保健所から譲渡されたものを含めて、子猫が 120~130 匹ほどいます。なぜ多いのかと言うと、保健所への通報の数が増えているのではないかと思います。対馬先生のおっしゃるように、市民の方のレベルがアップしたのか、あるいはコロナ禍で家にいて、猫が目につく頻度が増えたのが一つの要因だと思います。今までは、放っておいたら猫がいなくなったという方が多かったのですが、ボランティアもしくは保健所に相談するというアクションをする方が増えたのだと思います。そのため、保健所から来る子猫が増えているのではないかと思います。

保健所の動きもスピーディになり、母猫と一緒に子猫を保護できるようになりました。このこともあり、1 日置いて子猫が亡くなってしまいうということが少なくなり、収容数が増えたのではないかと思います。

あとは、気候が暖かいことや、餌をたくさん与えてしまう方もいて、まとまって猫が増えているケースもあります。暖かいと子猫が死なないので、増えてしまう要因になります。

TNR していると、すでに耳カットしてある猫がいます。それも、普段私

たちがしない水平カットと呼ばれる耳カットがある場合もあります。メールで来たご相談では、「餌を与えているのですが、2~3日猫が帰ってこないと思ったら耳カットされて帰ってきました。はちねこさんで手術していただいたのでしょうか。ありがとうございます。」といったこともありました。実際には他のボランティアや近所の方が手術したのだと思いますが、こうした背景には、保健所の不妊去勢手術に対する助成金や、捕獲器の貸出しがあるのではとありがたく思っています。

【対馬委員】

一般の方の感覚がいい方に変わってきていますよね。

【佐々木委員】

若い方からの相談も増えています。猫を保護して里親を探したいのですがどうしたらいいですか、というような、丸投げではない相談も少しずつ増えています。自分でできることはやってくれるようになってきています。

【対馬委員】

獣医師会の先生のところにも、野良猫を連れてくる方はいますか。

【菊地座長】

いますね。

【対馬委員】

それが「いつのまにか耳カットされて帰ってきた」猫かもしれませんね。

【飯田委員】

今までの倍くらいのスピードで子猫の收容が増えました。久間課長がいらしてからボランティア団体と議論する機会が増えまして、団体の声を聴いて、保健所のルーティーンを一部変えていただきました。今までだと、子猫がいて、母猫を捕まえるために再度ボランティアが行く必要があったのが、子猫を保護したその場で捕獲器をかけてくれるようになり、母猫の保護がしやすくなりました。保健所のルーティーンを変えていただいたのと、コロナの影響が相まって、子猫が増えているのではないかと感じます。

【対馬委員】

收容数を見ると、猫は減っていないように思えますが、お話を聞いていると、着実に進んでいるのだなと感じます。ステイホームで家の周りの小さなことに気付く人が増えたのかもかもしれません。

【飯田委員】

ピーク時は、キャパシティぎりぎりの収容でした。

【対馬委員】

苦情数について、令和2年度は特に猫の相談が増えていますが、その他の項目が増えているのは、何が増えたのでしょうか。

【事務局：久間】

まず、飼い犬、飼い猫の引き取り相談が増えていきます。令和元年度は約50件に対し、令和2年度は約100件でした。それから、汚物・汚水、悪臭、鳴き声とありますが、その他にも猫に車のボンネットに乗られるなどの苦情が多いです。

【対馬委員】

100件というのは犬、猫を合わせた件数ですか。

【事務局：久間】

その通りです。

【事務局：石川】

餌やりの相談もその他に含まれ、件数も増えています。

【対馬委員】

猫を拾ったんだけどどうしたらよいかという相談が増えていると小耳にはさみました。そのような相談が増えたというよりも、いわゆる苦情が増えたということですか。

【事務局：久間】

そうですね。

【飯田委員】

餌やりの相談というのは、餌をあげている人がいて困っているという苦情ということですか。

【事務局：石川】

野良猫への餌やりはやってもいいのかというご相談が多いです。

【佐々木委員】

手術していれば、猫が1、2匹だったらそんなに苦情になることはありませんが、手術していないとどんどん増えてしまって苦情につながって

しまいます。そこは、ちゃんと手術をしていくという指導をしていられないといけません。

【対馬委員】

潜在的に迷惑な餌やりをしていた方が、このステイホームであぶりだされたということですかね。

【佐々木委員】

増えている現場では猫の数が普通ではない。猫が 30 匹いるような現場もあり、子猫だけでも 1 現場で 10 匹以上いることもあります。

【飯田委員】

そういう現場の子は健康状態はよくないですか。

【佐々木委員】

よくない子もいるが、よく可愛がられています。親猫が人に馴れており、子猫も人に馴れているので、譲渡になることも多いです。

【対馬委員】

可愛がっていないわけではないんですね。ただ、少し方向性が間違っているのかなと思います。

【佐々木委員】

保健所への通報が増えている反面、他のボランティア団体さんが対応している団地では、近所が迷惑をしているのですが、通報すると角が立つから我慢してしまい、猫が増えてしまっているようなところもあると聞きます。あとは、地元にもともと住んでいて土地を持っているような人が餌をあげていて、後から越してきた方は軋轢が嫌で苦情を言えないということもあるようです。

【対馬委員】

その場合は、その方にお話をするのですか。

【佐々木委員】

他の住民の方からも保健所に通報されている場合もあり、すでに保健所から話をしていることもあります。頑固な方も多いので、アプローチを相談しながらやっています。

【対馬委員】

保健所への相談とバッティングしてしまうことがあるということですか

ね。

【飯田委員】

尾川委員に質問なのですが、町自連の中でこういう話が出ることはあるのでしょうか。

【尾川委員】

先日、保健所が町自連の役員会に来ていただいて、このような飼い主のいない猫の問題があるという話をさせていただきましたが、町自連の議題として猫の問題をどうにかしないといけないというような直接の議題は私が就任してからはありません。むしろ、町会の加入率の低下や、役員の問題などが議題に上がることが多いです。

【事務局：久間】

資料でお示した2枚のチラシを、町会自治会を通じて回覧させていただきたいと思っています。

【尾川委員】

チラシが回覧されてくれば、猫の問題を考えるきっかけになるかもしれません。

助成金はメス7千円、オス4千円の補助とありますが、この金額で足りるのでしょうか。それとも、多少自己負担はあるのでしょうか。

【事務局：久間】

これまでは平均的な手術費用の半分ほどの補助でしたが、今年度になって手術費の6割ほどの補助になりました。

【尾川委員】

善意ある方が一部自腹でやってくださるということですね。意識の高い方が、猫が増えるのはかわいそうだということで手術をやってくださっているということですね。

【事務局：久間】

朗報がありまして、行政側からは、特定の動物病院の紹介はできないのですが、今年、飼い主にいない猫の不妊去勢手術専門のMOCO動物病院が曉町にできました。不妊手術が7千円、去勢手術が4千円なので、実質、自己負担なく手術を行うことができるようになりました。

【尾川委員】

紹介してもよい氣もしますね。

【事務局：久間】

費用の中には、麻酔、手術、抗生物質、ワクチン、ノミ取りも含まれています。

【尾川委員】

はちねこにも猫の相談が来るのかと思いますが、そのような相談をしてきた方に、この病院のことをお伝えできるとよいですね。

【佐々木委員】

何とかしたいという人だけでなく、猫に困っている方が手術に取り組むとなお良いと思います。これは、私たちや保健所さんが説明をしていかないといけない部分だと思います。今、殺処分をなくしていこうという機運が高まっています。どうやって猫の被害を減らすかといえば、TNRや地域猫活動という手段になります。手術して、一代限りの命にしてあげれば、平均 5~6 年しか生きませんし、オスは手術すれば散っていきますし、怖い目に合うと移動していくので、2 割ぐらいはふっと消えていきます。

その後やっぱり 3 年 4 年 5 年って経つとさっき対馬先生も言ったように周りで猫ばかり見なくなったという状態になります。猫が嫌いな方ほどカンパを集めたり費用を出してでもやっていただきたいと思います。そのことを町会でも広めていただけるとありがたいです。

【尾川委員】

そこが一番難しいところでもあります。困っている人は敵対心を持っているので、「猫は保健所が捕まえてなんとかすればいい」と思ってしまいます。TNR というのを地道に啓発活動していくとともに、現実的には猫をかわいがってくれている人のところで手術を進めていくことが多いのではないかと思います。

【佐々木委員】

餌をあげている方と、迷惑している方と、関心がない方が混在しているのが町なので、その方たちが協力してやっていくのが理想だと思います。住民の話し合いの場には、保健所やボランティアも同席して説明することもできます。そういったことも保健所に頼めばやってくださいます。

【飯田委員】

問題の根本は動物は全く悪くなくて、人と人との摩擦が問題になります。ですので、猫を中心に置くのではなくて、地域の問題として捉えることが重要だと思います。好きな人も嫌いな人も、この問題を解決することが両方にとってのメリットなんだというアプローチでいけたらと思いま

す。町内会に話があった時に、そのような立ち位置で入っていただくと町内会に入れば地域の問題解決できるんだっていうところにフォーカスできるので頼もしいですし、助かります。我々としても、多くの猫の問題があった時に、対症療法ではなく、システムとして減らしていくという形を作らないと、ボランティア団体が全てを面倒見ることは絶対できません。そのようなシステムを作って解決していきたいと思っています。そこに町会が入っていただけるとありがたいですし、相談の窓口のようなものを設けていただけるといいのかなと思います。

【尾川委員】

実際にはどこの地域も、その近隣の町会がどのように解決していくかが問題になってくると思います。

もちろん、町自連としては保健所から情報や回覧が回ってくればそれを下におろすつもりですし、それなりの情報を町会自治会も把握しているとは思いますが、そのようなネットワークを作れば良いとは思いますが、地域ごとに違うので、実際には個別のアプローチをしていく形になるのではないかと思います。

【飯田委員】

「こういう問題がある」ということを理事の方に認識していただけるだけでもありがたいと思います。現場が100か所あれば、100回説明しなければいけませんが、町会からだと水平展開できたり、「あそこの町会でうまくいったから、聞いてみたら」という形でやっていけるとうまく回っていくのかなと思います。

【尾川委員】

そのようなモデルができるとよいですね。

【飯田委員】

そういう活動の中で、若い人、興味ある人は一緒に活動していきましようとなればよいですね。

【対馬委員】

若い人という話が出ましたが、学生さんの話を聞くと、猫は室内飼いが当たり前という認識ですし、野良猫は手術してあげないといけないという認識が当たり前になってきています。

なので、もしかすると、餌をあげて増やしてしまっているのはご年配の方なのではないかという印象があります。放し飼いが普通だった年代であったり、寂しくて餌を与えてしまうといった方もいると思うので、その方たちへの対応は大切です。

再生産してしまうことが飼い主のいない猫の大きな問題で、若い方への教育も同時並行でやっていくことが重要だと思います。猫を飼うときに大切なことや、猫の繁殖スピードがものすごく速いこと、不妊去勢手術ってこういうことをするんだよということを、保健所からもっと若い方に発信していくべきだと思います。この後の動物愛護センターの話にもつながっていきますが、そのような普及啓発をしていただきたいと思っています。

動物愛護推進員の仲間の中には、そのような話に関する講師をできる方もいらっしゃいます。場所さえ提供していただければ、そのような講義をすることもできると思います。

【佐々木委員】

TNR や飼い主のいない猫の話ではなく、楽しいテーマの中に、そのような啓発も盛り込ませるとよいですね。おもしろそうな講座がある之行ってみたら、このようなことを刷り込まれて帰っていくようにできるとよいですね。

【対馬委員】

保健所は youtube チャンネルとかはないのですか。

【佐々木委員】

獣医師の先生が教える猫の健康講座に啓発も入れるなど、猫が好きだけど積極的には何もしてない方を活動家に変えていく方がよいのではないかと思います。

【対馬委員】

今は猫ブームで、ステイホームも相まって猫が増えています。

【西木委員】

どういう風に譲渡の情報を八王子市民が知ることができるのですか。保健所さんに連絡する人ももちろんいるでしょうけど、譲渡会とか広報なのでしょうか。

【飯田委員】

うちの団体はホームページで譲渡会の日程を周知しています。

【佐々木委員】

ハブネットさんは保健所の駐車場で譲渡会を実施しています。通りすがりで見かけて、ああここでやっているんだと気が付く方もいらっしゃると思います。はちねこの場合はホームページで周知しています。他の団

体には高尾霊園で譲渡会を実施しているところもあります。インターネットを利用できる方はそういうところで保護猫保護犬を迎えることがカッコいいと思う方もいらっしゃいます。芸能人の方も、ボランティア団体さんに自分がボランティア活動に行っているということを発信しています。そのような方の情報から「保護猫カッコいいんだ」と感じる方もいます。また、保護猫は初期費用が安いということもあります。ペットショップで買った30万円する猫も、似たような洋猫交じりの野良猫は結構いるのでふわふわの子が譲渡会で譲渡してもらえれば比較的安価に飼うことができます。

【西木委員】

あと、獣医師の立場として、地域猫の定義が難しいと思っています。もちろん地域猫がいるのは分かりますが、動物病院に八王子市の補助金を使って不妊去勢手術を希望される方の中には、どう考えても地域猫とは思えないような猫がいます。そのような個人の猫でないかと疑われるような子の手術まで補助金の申請を希望されるケースがあります。獣医師としては、飼い猫なのか地域猫なのかの区別ができるわけではないことから、どのような猫までが補助金の対象となるのかについての条件を決めることも必要なんじゃないかなと思っています。

【渋谷委員】

寝場所を提供するということは、飼い猫としての要件を満たしていると思われず。

【尾川委員】

助成金の予算措置が3,100,000円までとなっていますが、実績としてこの額を超えてしまうようなことはあるのですか。

【事務局：久間】

最近では予算内で収まっています。

【尾川委員】

増やさないということは大事なことだと思います。

【丸山委員】

対象となる猫を判別するためのチェックリストを作るなどしても良いかもしれないですね。

【対馬委員】

行政的な公平性を考えると、ちょっと困った問題ではありますが、昔の、

動物愛護センターに多くの子猫が運ばれてきていた時代を考えると、不妊去勢手術をしてくれるようになっただけでもありがたいことだと思います。

【西木委員】

完全室内飼いの猫に助成金を使えるかという問い合わせがあったこともあります。それは断りましたが。

【佐々木委員】

自治体によっては、飼い猫の手術に助成金を出しているところもあったと思います。

【対馬委員】

昔は、飼い犬、飼い猫から助成金が始まり、ひと段落したことで、野良猫へフェーズが変化してきたことから、昔のことを知っている方の中には、飼い猫も対象になると考えている人もいるかもしれないですね。

【佐々木委員】

アンケートについては、不特定の方を抽出して郵送するということがよいですか。

【事務局：久間】

そのとおりです。

【佐々木委員】

いつ頃実施する予定ですか。

【事務局：久間】

今年度中に集計をしたいと思っていますので、9月以降に発送を予定しています。契約期間も踏まえて調整していきます。

【尾川委員】

対象は何名くらいですか。

【事務局：久間】

3千名です。

【対馬委員】

無作為抽出ですか。

【事務局：久間】

その通りです。

【対馬委員】

世帯数はどのくらいあるのですか。

【事務局：石川】

約 25 万世帯です。

【飯田委員】

飼い主のいない猫対策推進協力員について、この仕組みを作る背景をお聞かせいただきたいです。

【事務局：久間】

ボランティアの方々の活動のしやすさに結びつけたいと考えています。ボランティアの身分を証明するものがなく、市とボランティアとの関係も曖昧だったため、それを明確にすることが目的です。また、市内には、団体に属さず、個人で活動されている方もいらっしゃると思います。そういった方で、こちらの協議会の推薦があれば協力員になっていただき、活動していただける方を増やしていきたいと考えています。

【飯田委員】

確かに、現場などでこの方は誰だろうと思う方がいるときがあります。ハプネットでは名刺を作って利用しているが、他の自治体では、腕章をして活動するようなこともあると聞いています。

【事務局：久間】

協力員制度については、要綱の第3条（4）に当協議会委員の推薦を受けたものとしていることから、この内容でよろしければ明日8月1日施行としたいと考えています。

【佐々木委員】

当面は、ハプネットとはちねこの2つの会のメンバー中心となってしまっていますが、八王子は広いことから、多くの地域をカバーするために、個人で活動をしている方も登録できるようになることが望ましいと思います。そのためにも、活動にあたっての心構えや捕獲器の取扱い、子猫と母猫がいた場合の対応などに関する基礎講習などを、事前に実施してはいかがでしょうか。

どこかの公園において行われている地域猫活動のために、地域猫活動の解説や必要な物品の破壊を禁止する内容の看板があった。公園で実施す

る地域猫活動にはこのようなことを試しても良いと思います。

【飯田委員】

協力員の制度ができると、その中でこのような議論をしていくようになるのでしょうか。

【事務局：久間】

連絡会を実施していくことを考えているため、必要であれば、その中で議論していただくことになると思います。

《議題2（仮称）八王子市動物愛護センターの整備について》

【事務局：石川】

○資料6、7について説明

【渋谷委員】

現在、東京都における動物愛護相談センターの設置状況はどのようになっているのでしょうか。

【事務局：久間】

世田谷・城南島・多摩支所の3か所に加え、動物愛護センターを持たない八王子・町田は都に一部業務を委託しながら業務を実施しているところ です。

【渋谷委員】

八王子にできるということは、東京都から独立するような形になるのですか。

【事務局：久間】

東京都と連携しながら行っていくことになります。

【佐々木委員】

整備する動物愛護センターはノーキル施設ということで良かったでしょうか。

【事務局：久間】

ガス室を作る予定はありません。

【対馬委員】

愛護センターの役割は、収容から普及啓発にシフトしつつあるのは確か

ですが、最終的に行政の施設に残る犬や猫は、噛み癖が治らないような子が想定されます。家族全員を噛んでしまったような噛み犬は社会に戻すことはできません。

ノーキルということは、行政の施設としてあり得ないしあってはならないと思います。

公衆衛生を担う最後の砦として、そこには真正面から向き合っていく必要があると思います。

【事務局：久間】

ここ数年の八王子における傾向を見た時に、そういったケースはあまりないと考えています。また、所有者からひどい噛み癖を理由に引き取りを求められたことはないが、行政として想定しておくべきこととは考えています。

【対馬委員】

たまたま、八王子が保健所設置市になって以降、そのような事例がなかったかもしれませんが、行政として想定しておくべきですし、それに対応した施設にすべきだと思います。

【飯田委員】

私の知る事例で、鎖につながれたドーベルマンで飼育できないということがあったのですが、そういった子はどのような背景によるものが多いのでしょうか。

【対馬委員】

千差万別です。生まれつき不安傾向の強い子に対して、体罰のような飼育をしてしまったことにより、噛むという自衛手段に至ってしまうことや、脳の機能の問題で、攻撃性を抑えることができないような場合もあります。

そして、その矯正にはとても時間がかかるものであり、例えば、3年かけてついてしまった噛み癖は、その治療に6・7年かかってしまいます。

【飯田委員】

凶暴性を持った猫の場合で、歯をすべて抜いてしまうような対処法を考える先生もいるようですが、実際にそのようなことも可能なのですか。

【対馬委員】

猫の場合、攻撃されて人が死んだり重症を負ったりということはないと思います。そういった意味では、どちらもケガをさせない状態で治療していくといった時間的猶予があるのではないかと思います。

【丸山委員】

狂犬病やパストレルなどの動物由来感染症について、設置する動物愛護センターで取り扱うことになるのですか。

【事務局：久間】

中核市の設置する動物愛護センターとして持つべき業務については取り扱うことになります。

【刈馬委員】

飼養施設については、先般、改正された動物愛護法に則って、動物取扱業の事業者が義務付けられた犬猫のケージ以上のものの設置をお願いしたいと思います。

現状、動物愛護センターでここまでのものを入れている施設はありませんが、動物取扱業者に求める基準であるのであれば、行政が作る施設でも同様以上の基準で設置してほしいと思います。

【西木委員】

野生動物は取り扱うのでしょうか。

【事務局：久間】

獣害対策課が野生動物の担当窓口になり、動物愛護センターでは取り扱いません。

【佐々木委員】

猫の捕獲時に野生動物が入ってしまうこともあります。

【刈馬委員】

野生鳥獣管理法により、捕獲してはいけない動物なので、捕獲できても、リリースする他ありません。

犬舎の構造などは、一度決まってしまうと簡単には変えることができないことから、噛み癖のある犬などについても想定して、二重扉など、人にとっても安全なものを考えてほしいと思います。

また、海外のシェルターも参考にしてほしいと思います。

災害対策という点においても、対応できる施設としてほしいと思います。被災して流されたり倒壊した家に猫がいたような場合、いつまでも大部屋で過ごすわけにはいきません。普段、空き部屋となってしまうことにはある程度許容し、対応できるだけのものを確保しておくことを望みます。

また、高齢化社会が進む中、飼い主さんが亡くなったり入院するなど、飼い猫や飼い犬の世話ができる人がいないというケースは増えていくと

| | |
|---------------|---|
| | <p>思います。</p> <p>現状、八王子ではないとのことですが、これからは大変ですので、そういった時に備え、一時保護できるようにしてほしいと思います。</p> <p>こういったことも考えたうえで、設計については行っていただきたいです。</p> <p>【事務局：久間】</p> <p>神奈川県動物愛護センターを視察した際、多頭飼育崩壊により143匹の猫が収容されていました。このレベルになると、広い部屋を利用して収容を行っていました。</p> <p>【対馬委員】</p> <p>猫の場合、感染症対策として小部屋がいくつか必要になります。これまで、他の自治体でも同様の施設を整備しており、各施設で失敗した点などもあると思います。いろんな事例を聞いて、そういったことを活かして良いものを作ってほしいです。</p> <p>今は、猫が少ないかもしれませんが、これからは増えていくと思われます。それに対応した将来を見越したものをを作ってほしいです。</p> <p>【飯田委員】</p> <p>猫用のケージについて、普段は仕切りのプレートを外して3段のケージとして使用し、増えるとプレートを差し込むことで、それぞれが個室になるようなものもあります。そういったものを利用しても良いかと思えます。</p> <p>【菊地座長】</p> <p>皆さまよろしいでしょうか。それでは、本日のまとめをしたいと思います。事務局から確認をお願いいたします。</p> <p>【事務局：山川】</p> <p>○本日の意見のまとめ</p> <p>【菊地座長】</p> <p>それでは本日の協議会を終了します。皆様ありがとうございました。</p> |
| <p>会議録署名人</p> | <p>令和3年 9月15日 署名 飯田 公 司</p> |